

# 県立金沢文庫の開館

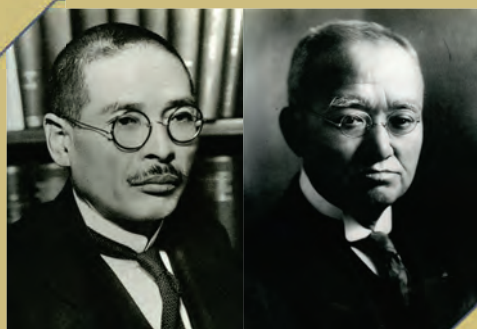
## 金沢文庫の被災と復興計画

鎌倉時代の武家文庫に起源をもつ金沢文庫は、伊藤博文により明治30（1897）年に再興されましたが、関東大震災で被災します。昭和3（1928）年、池田知事は昭和天皇の即位記念事業として金沢文庫の復興を計画しますが、不況の最中であり、建設費の半額を寄附金で賄うよう、県議会から求められました。

## 寄附と復興の実現

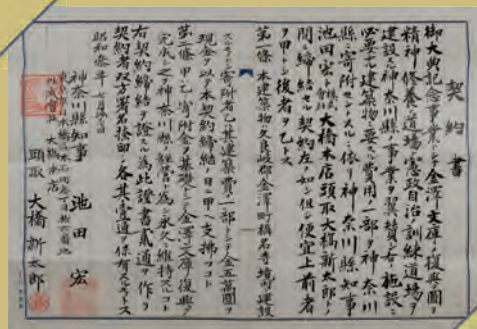
池田知事は、実業家の大橋新太郎に寄附の相談を持ちかけ、大橋は、全額を一人で寄附することを快諾します。

こうして金沢文庫は、昭和5（1930）年8月、称名寺の境内に、新たに県立の施設として復興を果たしました。



池田宏知事

大橋新太郎



寄附契約書

## 開館後の県立金沢文庫

その後、職員や外部の研究者により、称名寺から県立金沢文庫に移された資料の調査が行われ、日本の歴史や文化史などを塗り替えるような資料が次々と発見されました。

平成2（1990）年には現在の施設へ移転し、2万点を超える国宝を有する歴史博物館として、本年、開館96周年を迎えます。



県立金沢文庫(旧館、昭和5年建築)



現在の県立金沢文庫

写真下の文字は、「神奈川縣御大典記念事業トシテ知事池田宏氏ト實業家大橋氏トニヨリ再興サレシ金沢文庫（昭和五年十一月横鎮第十四號檢閲済）」



かながわ「昭和100年」

つながる心、ともに未来へ